

## 我が国最大のナベヅル越冬地湖北省の龍感湖

趙学剛

訳 福井和二

ナベヅルは我が国で見られる9種のツル類の内、比較的数が少なく、研究もなされていない種である。国内にある、数少ないナベヅルの研究文献に、湖北省の越冬ナベヅルに関する報告書はまだ無い。ナベヅルの主要な越冬地とされているのは安徽省の升金湖、江西省の鄱陽湖、湖南省の洞庭湖などの地である(馬逸清<我国のツル類研究と保護の進展>・王岐山<ナベヅル>等による)。その実、湖北省の龍感湖は我が国のナベヅルの最も重要な越冬地であり、そこで越冬しているナベヅルの数は升金湖、鄱陽湖、洞庭湖などよりも大きく越えているのである。これは新しい発見で、湖北省環境保護局が近年鳥類学者を組織して展開した<江漢湖地区湿地の越冬希少鳥類調査>において発見されたものである。

龍感湖は江漢湖群中最も大きな淡水で水深の浅い湖で、湖北省東南の隅で安徽省に続いている湖である。湖心の位置は東経116° 3′ 北緯29° 55′ で、湖北省内の面積は106.16km<sup>2</sup>、湖畔にある湿地の面積は数万 $\text{ha}$ といわれ、住民が少なく、農民は遠方から来て1季の水稻作をおこなっている。冬季は広大な湿地に人が入ることがなく、豊富な湿生植物や、水稻の落ち穂等はナベヅルの絶好な食物として頼りにされている。毎年10月下旬から翌年3月末までの間、多数のナベヅルが越冬している。我々は最近、連続して個体数観察を行ったところ、1987年3月27日、まだ北へ帰らないナベヅルが46羽いた。1988年1月31日375羽、1988年2月1日195羽、1988年2月8日241羽、1988年12月25日407羽であった。ナベヅルの研究を多く手がけている安徽大学の王岐山の報告(動物学雑誌1988(4))によると、長江中流で越冬するナベヅルの分布のおおよそは、安徽省升金湖に約200羽、江西省鄱陽湖に約200羽、湖南省洞庭湖に100羽、総数500羽ほどとなっている。我々が湖北省龍感湖において観察したナベヅルの数は前述のいかなる越冬地をも越えるものであった。これにより、我が国におけるナベヅルの最大の越冬地は湖北省の龍感湖であり、その数は400羽前後で、全国のナベヅルの総数は当然、約1000羽と改めなければならない。

龍感湖の大きなナベヅルの発見は、湖北省政府と関係者の重大な関心を示した。1988年10月、省政府は<湿地における越冬希少鳥類の保護に関して>という電文通達を発し、龍感湖のある黄梅県政府にナベヅルが越冬している1.5万 $\text{ha}$ の湿地を自然保護区とし、一切の狩猟と越冬に対する人為干渉行為を禁止した。